



平成30年度第2回評議員会を開催

2月5日、平成30年度第2回評議員会を開催しました。開催にあたり井戸支部長から「21世紀になり天変地異が続いているなか、来年の1月17日で阪神・淡路大震災から25年を迎えることとなります。25年を迎えるにあたり、防災減災の体制を巻き直すような覚悟でこれから一年進めていきたいと考えています。また、柏原赤十字病院は84年の歴史を閉じて県立柏原病院と統合し新しく県立丹波医療センターとして発足することになります。これまでの支援にお礼を申し上げますとともに丹波医療センターのこれからにご指導と慈しみをいただけたらありがたいと思います。」と挨拶しました。平成30年度の事業進捗状況報告に続き、平成31年度事業計画と歳入歳出予算、任期満了に伴う日本赤十字社代議員の選出について審議が行われ、承認されました。



挨拶する井戸支部長



赤十字とつながる“人”シリーズ

第6回 第6回は、3月末に定年退職を迎える赤十字職員2名のご挨拶です。

過ぎし日を振り返って

多可赤十字病院 事務副部長
寺尾 勝

3月末をもって定年退職を迎えます。40年前、兵庫県赤十字血液センターに入職、血液事業に従事の中で、献血者やボランティアの皆さんの赤十字への熱い思いにふれるうち、「自分にも何かできることがないか」と考えていた時、「救急法の指導員にならないか」とお声掛けいただき、昭和59年に指導員養成講習を受講し、なんとか指導員になることができました。以来、約20年間はボランティアとして、講習普及が職員の業務として位置付けられて以降は、職員指導員として関わらせていただき多くの学びがありました。また、平成18年からは救急法講師として指導員の養成にも関わらせていただき、改めて伝えることの難しさを学んだ十数年でした。40年間の勤務の中で、所属させていただいた各施設の職員をはじめ、他施設の職員、ボランティアの方々等、多くのすばらしい出会いがあり、皆様のご協力・ご支援をいただき無事定年を迎えることができました。最後に、これまでにお世話になりました全ての方々に深く感謝申し上げますと共に、今後益々赤十字事業が発展することを祈念いたします。



赤十字での39年間に感謝して

日本赤十字社兵庫県支部 総務部長
逢坂嘉弘

1980年(昭和55年)、兵庫県赤十字血液センターに入社した若き日、自分が定年退職を迎える年齢になるなんて想像すらできませんでした。その年代の頃、退職していく大先輩達の姿を見て、心のどこかで「自分は関係ない」「自分はまだまだず〜っと若い元気なまま」などと思っていたのかも知れません。それが今、自分がその瞬間を迎えるにあたり、何とも言えない複雑な気持ちです。さて、39年の間にはいろいろなことがありました。日航ジャンボ機の御巣鷹山墜落事故では最も信頼していた上司を亡くし、阪神・淡路大震災では誰もが経験したことのない事態に無我夢中で対応し、そしてHAT神戸の現庁舎や神戸赤十字病院建設のプロジェクトに参画させていただき、大きな責任と自覚を持って仕事に取り組むことが出来ました。その他にも、数えきれない色んなことがありましたが、どんな時にも前を向いて、人との出会いやつながりを大切に、そして巡ってきたチャンスを逃さないことが自分なりの生き方であったように思います。そして今、職場の若い人達は、きっとあの頃の自分と同じように私を見て感じているんだろうなと思います。「一日、一日を大切に!月日はすぐにたってしまうよ。」と素晴らしい先輩達にアドバイスして、またお世話になった皆さんに感謝しつつ、兵庫の赤十字の益々の発展を願い、赤十字人生に区切りをつけることとします。



応募者プレゼント

神戸を代表する洋菓子ブランド、モロゾフ株式会社様のファアーージュを5名様に! ご応募、お待ちしております!

抽選で
5名様

社名 モロゾフ株式会社 -こころつなぐ。笑顔かがやく。-
1931年、神戸トアロードのチョコレートショップから出発したモロゾフ。おいさと品質への厳しいこだわりは、すべて、贈る人と味わう人の「こころ」と「こころ」をつなぎ、ともに「笑顔」で満たされる瞬間のために。「こころつなぐ。笑顔かがやく。」この言葉に私たちの思いを託して、これからも、最高のおいさと最良のサービスをお届けします。

商品名 ファアーージュ 36個入
スライスマツをぎゅっしりしきつめてパリッと焼き上げた木の葉型クッキーに絶妙なバランスでチョコレートをサンド。アーモンドとヘーゼルナッツそれぞれのおいしさを引き立てる相性のよいチョコレートを厳選しました。味や食感が繊細に重なり合うおいしさは幅広い世代から長く愛され続けています。



応募方法

①氏名②郵便番号③住所④性別⑤年齢⑥電話番号⑦本誌でよかった記事(複数回答可)をメールまたははがきでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! ✕切りは2019年3月31日必着。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。
メール so-mu-ka9889@hyogo.jrc.or.jp ★件名に「応募者プレゼント」とご記入ください。
はがき 〒651-2411 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5 日本赤十字社兵庫県支部 応募者プレゼント係



柏原赤十字病院 閉院のお知らせ

柏原赤十字病院は、昭和10年の開設以来、受診しやすい病院として市民の皆さんにご利用いただけてきましたが、兵庫県立柏原病院との統合再編事業により、当院の機能は統合施設である県立丹波医療センター(仮称)及び丹波市健康センターミルネに引き継がれ、平成31年3月末をもって閉院いたします。84年の永きに亘るご支援ご協力に感謝申し上げます。

講習のご案内

| | |
|-----------------------------|--|
| 救急法基礎講習 (1日の講習) | 4月27日(土) 13:00~17:30 5月25日(土) 13:00~17:30 |
| 救急法救急員養成講習 (2日間の講習) | 5月18日(土)・19日(日) 9:30~17:30 |
| 救急法基礎・救急員養成講習 (3日間の講習) | 5月4日(土・祝)・5日(日・祝)・6日(月・振休) 9:30~17:30(初日は13:00~17:30) 6月23日(日)・29日(土)・30日(日) 9:30~17:30(初日は13:00~17:30) |
| 水上安全法救助員I養成講習 (4日間の講習) | 4月29日(月・祝) 基礎9:00~14:30 養成15:00~17:00 5月3日(金・祝)・4日(土・祝)・5日(日・祝) 9:00~17:00(最終日は9:00~14:00) 場所: 1日目 日本赤十字社兵庫県支部 2日目~4日目 ポートアイランドスポーツセンター |
| 幼児安全法支援員養成講習 (2日間の講習) | 5月11日(土)・12日(日) 9:30~17:30 |
| 健康生活支援講習支援員養成講習 (2日間の講習) | 4月13日(土)・14日(日) 9:30~17:10(初日は9:30~16:30) |

※申込期日は開催日(初日)の1ヵ月前までです。

お問い合わせは、お電話またはホームページで

Tel.078-241-1499

※隔月(奇数月)に発行しています。



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 http://www.hyogo.jrc.or.jp/

ひょうごの赤十字 3月号 [2019年3月1日発行]



ひょうごの赤十字+

2019
3



いのちと健康を守る活動にご協力感謝いたします。



今年度もたくさんのご支援ありがとうございました!!



- ・「NHK海外たすけあい」のご報告
- ・オーストラリア赤十字社へ職員を派遣
- ・青少年赤十字メンバーの献血呼び掛けキャンペーン
- ・平成30年度第2回評議員会を開催
- ・1.17も忘れない「伝える」「活かす」備える
- ・柏原赤十字病院 閉院のお知らせ

平成30年度「NHK 海外たすけあい」にご協力ありがとうございました！

世界で紛争や頻発する自然災害、飢餓、病気などで命の危機に直面している人びとを救うため毎年12月にNHKと共同で募金キャンペーン「海外たすけあい」に取り組んでいます。当支部では今年度も兵庫県赤十字奉仕団や日赤有功会の皆さまをはじめ、県内主要駅で街頭募金などを通じて多くの方々からご協力いただきました。

お寄せいただいた募金は、ミャンマー、シリア、イエメン、南スーダンなど、止むことのない紛争や暴力により避難を余儀なくされる人びとへの支援、世界各地で地震や洪水、サイクロンなどの災害で大きな被害を受けた人びとへの支援、予防できるはずのコレラなどの感染症になやまされる人びとへの支援に役立てられます。

ご協力いただいた募金のご報告

| | |
|-----------|-------------|
| 兵庫県赤十字奉仕団 | 1,077,900 円 |
| 兵庫県日赤有功会 | 3,331,000 円 |
| 特別赤十字奉仕団 | 176,150 円 |
| 青少年赤十字加盟校 | 60,797 円 |
| 地区、分区、その他 | 347,204 円 |
| NHK | 1,227,563 円 |
| 街頭募金 | 120,730 円 |
| 兵庫県支部・施設 | 336,378 円 |
| 合計 | 6,677,722 円 |



街頭募金の様子



兵庫県赤十字奉仕団からの寄付金を井戸支部長へ手渡す北野美智子委員長(中央)

平成30年度兵庫県高等学校青少年赤十字 献血呼び掛けキャンペーン

青少年赤十字の新規事業として『兵庫県高等学校青少年赤十字献血呼び掛けキャンペーン』を1月26日(土)にJR三ノ宮駅周辺、1月27日(日)にJR姫路駅周辺にて実施し、計22名の高等学校青少年赤十字メンバー(※以下メンバー)が参加しました。

当日は寒波の中での呼び掛けでしたが、たくさんの方がお声掛けくださり、献血ルームに足を運んでいただきました。メンバーからは、「とても充実していて、やりがいがあった。自分の活動で助かる命があると思うと、とてもやる気が湧いて、雪が降っていても大きな声で呼び掛けることができました。今後は家族や友人に献血を勧め、血液が必要な人の役に立ちたい。」といった意見がありました。当日献血にも協力いただいたメンバーからは、「実際に献血してみて、ネガティブなイメージから一転して、気楽にできて驚いた。」との感想がありました。



姫路駅にて献血の呼び掛けをするメンバー

1.17は忘れない「伝える」「活かす」「備える」

阪神・淡路大震災から24年。今年も県内各地で、犠牲になった方々を追悼する行事や経験・教訓を次世代へ引き継ぐ催しが開かれ、兵庫県支部も神戸市中央区で開催された「ひょうご安全の日1.17のつどい」に参加協力しました。

防災啓発や被災地の復興を願うイベントが催されたなぎさ公園では、災害時に素早く対応できるような訓練も兼ね、兵庫県赤十字奉仕団の皆さんが野菜たっぷりの豚汁約600食を炊き出し、「赤十字まごころサービス」として来場者に提供しました。

また、防災訓練への参加や救急法ミニ講習なども実施し、来場者の皆さんが災害に備える意識を新たにすることをいただきました。



豚汁を来場者に手渡す北野美智子奉仕団委員長



心肺蘇生について説明する救急法指導員

緊急時の避難路を歩き、震災時を追体験することで防災意識を高めようとする「1.17ひょうごメモリアルウォーク2019」の休憩地点となった兵庫県支部1階駐車場では、赤十字防災ボランティアの皆さんと暖かいみそ汁約1,000食を提供した他、今年度はネスレ日本株式会社様にご協賛いただき、オリジナルデザインの「キットカット」と「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」によるコーヒーも合わせて配布しました。「24年前を思い出しながら10Kmコースを歩いてきました。」という来場者からは、「疲れた体にチョコの甘さが沁みました!ありがとうございます!」という感想をいただきました。



みそ汁を提供する防災ボランティアの皆さん



カフェコーナーも大人気でした!

災害からいのちを守る日本赤十字社として、震災の教訓「伝える」「活かす」「備える」をもとに、県民の皆さまの安全のため、これからも積極的な活動に取り組んでまいります。

遺言・相続財産・お香典でのご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出を多くいただいております。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。

お問い合わせは☎078-241-8921(振興課)まで



オーストラリア赤十字社・ICRC*オーストラリアミッションへ職員を派遣

今年度より兵庫県支部職員の人材開発・育成の一環として、特定課題研究を目的とした姉妹赤十字社や行政機関等への海外派遣を新規事業としてスタートしました。今回は、「若年層へ向けた広報戦略」をテーマに、オーストラリア赤十字社キャンベラ事務所およびICRCオーストラリアへ、12月8日(土)から14日(金)まで総務課の池田広報係長を派遣しました。

派遣報告

私がオーストラリア赤十字社を研修先として希望したのは、大学訪問などでユースボランティア(以下、ユース)の増員に取り組んだ前職の青少年係長時代に、オーストラリアではユースの活動が非常に活発かつ自発的であると聞いていたこと、日本人大学生をインターンとして受け入れているICRCオーストラリアのインターンシップ制度について学びたいという2つの観点からでした。今回研修を受け入れてくださったACT(首都特別地域)にあるキャンベラ事務所では、ホームレス支援センターの運営や高齢独居者への安否確認サービス、虐待された子供やその家族の支援など、地域に密着した社会福祉事業がとて充実しており、福祉のイベントへ参加したユースメンバーがSNSなどを使って発信し、仲間づくりも同時にしていくという流れを知ることができました。また、オーストラリアでは、ユース委員会の代表メンバーが赤十字の評議員となっており、若年層の意見を常に赤十字事業に取り入れられる体制となっていることが印象的でした。

そのほか、全国に160以上の店舗を持つレッドクロスショップの運営においては、H&MやZARAなど有名アパレルメーカーと提携し、ショッピングを楽しみながら赤十字の活動を知ることができる地域のスポットとなっていることに感銘を受けました。キャンベラで学んだオーストラリア赤十字社の活動をそのまま支部事業に取り入れることは簡単ではないとは思いますが、赤十字活動の根底にある「苦しんでいる人を救いたい」という使命は共通のものであり、今後、自分の業務をより充実発展させていくうえで、たくさんヒントを得たと感じています。



国際人道法担当のタラ・グットマン氏と



ACT評議員のつどいにて、ユース代表メンバーらと



Woden地区にあるレッドクロスショップ



ICRCオーストラリアミッションにて

*ICRC=International Committee of the Red Cross 赤十字国際委員会
ICRCは、戦争や武力紛争およびその他暴力の伴う事態によって犠牲を強いられた人々に対して人道的保護と支援を行う、公平にして中立、かつ独立した機関です。

いのちと健康を守る赤十字活動は
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。
活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号:01110-0-1136
口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。